

厚生文教委員会行政視察報告書（令和 6年 7月18日）

日 時：令和 6年 7月18日（木）
視 察 先： 静岡県静岡市
視察事項： 『 部活動の地域移行の取組について 』
内 容 静岡市は、東京と名古屋の太平洋ベルト地帯上のほぼ中間に位置し、静岡県の東西間でもほぼ中央にあり、政令指定都市のひとつでもあります。 静岡市では、将来にわたって、子どもたちがスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる機会を保障するため、部活動に代わる新たな受け皿となる地域クラブ活動「シズカツ」の実証事業を、令和8年度から休日において全市展開することを目指し、令和5年度及び6年度の2年間にわたり、市内数校で実施しています。 子どもたちのやってみたい！に応える持続可能な部活動システムの構築を掲げ、令和3年度より、部活動モデルの1つとして、従来の学校単位の部活動に代わる『エリア制部活動』の実践研究を開始され、令和12年までに、これまで学校が担ってきた部活動から、地域一体となって支える「シズカツ」へ移行する取組について、実施されている状況や受益者負担、課題の整理及び検証などについて調査しました。
視察を終えて 少子化などによって部活動に参加する生徒の数が減り、休廃部を検討している部活動が増えていました。一方、多くの教員が休日の指導に負担を感じている実態が見られました。そこで、隣り合った中学校ごとに市内を15のエリアに分類。生徒は、自分が通う学校にはない部活動でも、エリア内の別の中学校であれば参加可能としました。これによって、学校規模が異なる学校に通っていても、やりたい部活動に打ち込めるようになったとのことでありましたが、エリアをまたいでの参加は想定しておらず、自分のやりたい部活動ができない生徒が出てくるのが気がりでもあります。 また、部活動の地域移行への改革を進めるに当たり、児童生徒、保護者、教員等、延べ7,581名に対するアンケートを2年間にわたり実施し、部活動改革検討委員会及び総合教育会議等を実施し、静岡市の方向性を決めました。地域や学校の協力を得ながら教育的意義を有するクラブ「シズカツ」を展開されていることが特徴的でありました。 その結果、9割以上の生徒が、地域移行した部活動について「満足している」と回答するなど一定の成果が見られており、とても参考になる内容であったと感じました。

※視察の資料等については、議会事務局に保管してあります。